

オリジナルの「PFI事業」で 市民参加のまちづくり



関係者が出席しての起工式。いよいよ事業のスタートです！

それでは、この「キセラ川西」について、注目ポイントをいくつかご紹介いたします。

「計画賞」を受賞した市街地の再生計画

中央北整備事業は「PFI」という手法を使っています。キセラ川西という大切な場所を、市民の考える理想のまちにするためにはどうすればいいのか。そのアイデアと、アイデアを実現するためにどんな仕掛けができるのかなどをいくつかの事業者が提案してもらい、この地区に一番適した案の事業者と協定を結び事業を進めています。

■ PFIとは…

PFI (Private Finance Initiative: プライベート・ファイナンス・イニシアチブ)とは、従来、国や地方公共団体が自ら行ってきた公共施設などの「設計」「建設」「維持管理」「運営」を、民間の資金・経営能力および技術的能力を活用して行う、社会資本整備の新しい手法。

従来は、設計、建設などについて、別々の民間事業者に発注し、公共施設の管理は国や地方公共団体が行うのが一般的だったが、PFIでは、設計から運営までを一体のものとして1つの事業者が一括して行うことが特徴。

PFIの導入により、より安く良質な公共サービスを提供し、新しい官民パートナーシップの形成や、財政負担の平準化による事業促進などの効果が期待される。

通常のPFIでは、民間の資金を活用して公共施設など、建物の整備と運営を行います。キセラ川西でのPFI事業は、下図のように道路整備などの「都市基盤整備業務」と、市民参加をはじめ、地区全体の付加価値の向上をめざす「まちづくりコーディネーター業務」、住宅誘致などの「付帯業務」の3つの業務を一括して行うもので、全国でも珍しい試みとなっています。

そして、「中央北地区低炭素まちづくり計画」を「PFI事業」で実現しようとする市街地の再生計画が、2月21日、日本計画行政学会の計画賞を受賞しました。この賞は、環境問題、長寿化、情報化など新たな社会ニーズに応える、革新的で先導的な計画に対して贈られるもので、受賞は全国で8団体。私たちは、このような誇れる賞を受け、計画の実現に向けて一層気持ちを引き締めて取り組んでいます。

次のページでは、大きな特徴の一つである「都市基盤整備への市民参加」について紹介します。

■ キセラ川西のPFI事業

■ 都市基盤整備業務

- 道路、中央公園、せせらぎ遊歩道の設計、施工、維持管理の一元化
- 未利用エネルギーの活用

■ まちづくりコーディネーター業務

- 都市基盤整備への市民参加（ワークショップなど）
- エリアマネジメント（低炭素建築物の誘導、モニタリング）
- 事業者間の連携
- 環境学習など低炭素の啓発

■ 付帯業務（住宅の誘致）

- 民間住宅開発の実施
- 集約都市開発事業の活用
- 低炭素建築物の実現
- 未利用エネルギーの活用
- 生活利便施設の併設



キセラ川西 Kisela Kawanishi

未来ツアア！ 「キセラ川西」

PFI事業 × 市民参加 × 低炭素のまち × 公共施設集約



阪急・能勢電鉄「川西能勢口」駅から北へ約600m。中央北整備事業が進められているこの地区の愛称が「キセラ川西」です。たくさんの方の中から選ばれました。4月14日には起工式が行われ、工事が本格的に進んでいきます。本市の中心市街地にあるこの地区は、これから、どのように形作られていくのでしょうか。今までのまちづくりの手法とは、ちょっと違った取り組みがあるようです。今号は、4月から同地区の「まちづくりコーディネーター専門員」となった寺島義治さんの案内で、キセラ川西のめざす未来を見に行きました。詳しくは中央北推進室 ☎ (740) 1214 と、7ページに掲載の公共施設などの複合施設については公共施設再配置推進室 ☎ (740) 3737 へ。

4月14日に「起工式」 中央北地区の新しい姿を紹介！



人が集まるスペース 「キセラ川西」へ

皆さんは、中央北地区で大規模な工事が行われ、どんなその形が変わってきていることをご存知ですか。

中心市街地の約22%という広大な土地が、これから市とさまざまな事業者や団体、市民の皆さんが関わりながら大きく成長しようとしています。

川西能勢口駅から北へ歩くと、地区内には「せせらぎ」が聞こえる遊歩道が続き、その横には防災機能を備えた「中央公園」が広がります。週末になると、音楽コンサートなどが開かれ、自然に人が集まる、そんな場所をめざして整備が進められているところです。

この地区に関わる皆さんをつなぎ、調整していくことが「まちづくりコーディネーター」としての私の役割で、少しでもお役に立てるように頑張りたいと思っています。

■ まちづくりコーディネーター専門員
寺島 義治 (Terajima Yoshiharu)
行政と事業者、市民などキセラ川西のまちづくりに関わる人たちの調整役。最近のマイブームはヨガと散歩。





中央公園のイメージ

この公園に来れば 何か面白いことがある

ワークショップで活発な意見交換



この方法によって、利用者である市民の皆さんは、自分の経験を生かした取り組みができます。公園の維持管理など、運営管理においても積極的に関

市民協働で育てる 新しい公園のカタチ

実際に利用する人が使いたい、また来たいと思う公園。そんな愛される公園を作るための、使いながら作っていく、作りながら使っていく方法です。

このように、中央公園の設計には第一段階として、公園を利用するたくさんの方の意見を集められました。これから公園の完成まで約3年間、勉強会や現地見学会などを行っていく中で、市民の皆さんには参加しながら、より良い公園の使い方を考えていただきたいと思っています。

使いながら作っていく 作りながら使っていく

わってもらえるよう、持続可能な公園の運営をめざしています。

一方、この中央公園は楽しいだけではなくありません。災害時には一時避難場所になるほか、地下に貯留槽を備え、生活用水の確保などに役立つ機能も持っています。

市民の皆さんの役に立ち、いつでもここに来れば何か面白いことがある。そんな公園に育ってほしいですね。

次のページでは、全国で初めて制定した「低炭素のまちづくり計画」について紹介します。

子どもたちのアイデアと思いをカタチに おとなになっても訪れたい公園



こんな公園になったらいいな



花畑を散歩したい



イベントに参加したい



水遊びがしたい

地区内のほぼ中央に位置するせせらぎ遊歩道や中央公園は、計画から管理運営までを市民の皆さんに関わっていただきます。街中で買い物物の途中にちょっと休憩したり、のんびり緑を眺める場所。そんな場所にするためには、今までのように行政主導で作ったものを単に利用してもらうだけではなく、計画段階から行政と一緒に取り組んでもらう方が良いのではないかと、自分たちのアイデアがカタチになることで、愛着や思いが加わり、より親しみの深い施設として長く利用してもらえないかなどと考えたのです。

これまでに取り組んだ市民参加の方法は2つあります。一つは市内全小学校の全学年へのアンケートで、もう一つは公募した皆さんによるワークショップです。

子どもたちへのアンケートでは、

全小学校でアンケートを実施

1383通の回答があり、滑り台やブランコ、アスレチックといった遊具、ベンチやテーブルなどの休憩施設が欲しいという意見が多くありました。中には1000以上の滑り台と200以上の登り棒が欲しいというユニモアの意見もありました。

人が集まる仕掛けを みんなの知恵とアイデアで

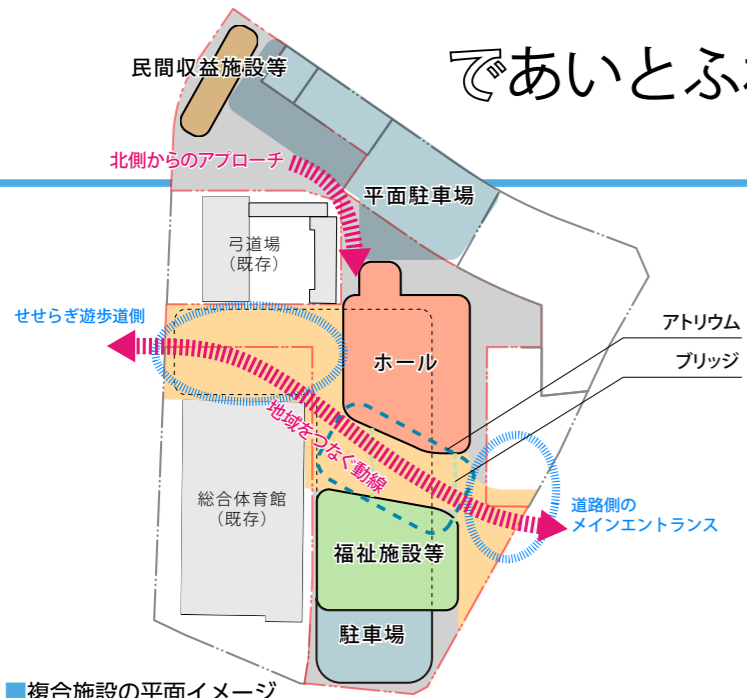
また、中央公園のワークショップでは、どのような公園にしたいか、作りたい施設や機能のほか、使用時の留意点などが話し合われ、参加者同士で活発な意見交換がありました。

公園に期待するものとしては、樹木や花、緑豊かな公園といったものが多く、おとなも楽しめる自然観察会や子どもの遊び場としてのプレパーク、ご当地グルメのイベントが開催できる公園など、楽しいアイデアも続出し

住宅施設北側広場のイメージ



であいとふれあいの新スペース 公共施設の宝箱



■複合施設の平面イメージ

「であいとふれあいの文化・交流スペース」として、公共施設などを集約する複合施設整備は、公共施設再配置推進室で進めています。さっそく施設のイメージを見てみましょう。

ここでは、さまざまなシーンで人と人が出会い、ふれあい、支え合いながら、文化活動や交流を深める場となることをイメージしています。

建物の特徴は、文化関連施設のホールとそれ以外の福祉・保健関連施設を分け、3階をブリッジでつないでいることです。これは人の流れなどを考え、

新しい出会いから 広がる市民の輪

道路側とせせらぎ遊歩道側との導線を確保するための工夫です（左上図）。施設内には、現在の「ふれあいプラザ」にある諸施設のほか、「中央公民館」や「文化会館」の機能が一部が配置されます。これらの施設は、いずれも耐震性に乏しく、老朽化も進んでいることから、建て替えが必要とされているものです。そのほか、地区内にある福祉関連施設についても、この複合施設への配置を検討しています。福祉機能として、専門的な相談を行う機能を複合施設に可能な限り集約し、総合的な相談や支援ができる体制をさらに充実させた、地域福祉活動の拠点的な役割を担える場所というイメージです。市内の各地域で活動している民生委員・児童委員、地区福祉委員、ボランティアグループなどの皆さんとの総合的な支援ネットワークができる、そんな施設になることをめざしています。

キセラ川西のめざす未来

いかがでしたか。キセラ川西のめざす未来は、皆さんの目にどう映ったでしょうか。振り返ってみると、さまざまな都市機能を合わせ持つ魅力あるまちとして、生まれ変わるために欠かせないものがありました。それは、市民の皆さんの力です。この「キセラ川西」を全国に誇れるかけがえのないまちに育てていくために、皆さんと共に全力でお手伝いしたいと思います。

低炭素のまちづくりって？ 環境を守るための全国初の計画と条例

大好きなまちを 守り続けるために

続いて紹介するのは、地区内で特に取り組もうとしている「低炭素まちづくり」についてです。

「低炭素」とは、二酸化炭素の排出が少ないということで、環境に優しい取り組みの一つに挙げられます。

東日本大震災以降、エネルギーの問題や地球温暖化などへの関心は高まっていますし、私たちの身近な生活においても、節電などに取り組んでいる人が多いと思います。

そんな中で、24年9月に「都市の低炭素化の促進に関する法律（エコまち法）」が制定されました。

市では、これを受けて昨年3月に全国で初めて、エコまち法に基づく「川西市中央北地区低炭素まちづくり計画」を制定しました。

さらに、この計画をより確実に進めるため、地区内で建築するとき事前に協議を求める「建築行為等の手続条例」を、同年12月に制定しています。このような条例は、全国でも例を見ない取り組みです。

この条例により、地区内にこれから建設される建物には、まちの環境を守り続けるために必要な工夫が、今まで以上に見られるようになるはずです。

中央公園における低炭素化・未利用エネルギーの活用には、太陽光、風力、

水力（せせらぎ）、地中水熱などが考えられます。

PFI事業の提案では、技術革新が比較的進んでいて、確実な効果が期待できる「太陽光エネルギー」を活用した蓄電システムなどの設置が挙げられています。

具体的には、公園のトイレや倉庫の屋根に太陽電池を設置し、発電するとともに余った電力は蓄電池に充電して、夜間照明などに利用します。また、雨水を再利用するシステムを導入し、植栽や打ち水に利用すること、そのほか、子どもたちの環境学習として、せせらぎ遊歩道に小型の水力発電機を設置して、水力発電の実験を行うことなど、さまざまな活用方法が検討されています。

低炭素社会を実現する モデル地区として

このように、キセラ川西は、低炭素社会の実現に向けたモデル地区となることをめざし、取り組みを始めています。

もちろん、次に紹介する地区内に建設予定の複合施設においても同様です。ここでは特に、屋上や壁面の緑化など、技術的なものに加えて、市民の皆さんへのさまざまな啓発活動と環境学習を行う仕組みを、どう取り入れていくのか考えられています。

